



孤独・孤立の実態把握に関する市民意識調査について(報告)

孤独・孤立の実態把握に関する市民意識調査（人々のつながりに関するアンケート調査）を実施し、報告書が完成しましたので報告します。

また、報告書につきましては、呉市ホームページにて公開するとともに、孤独・孤立対策を検討するための基礎資料として利用するなど、有効に活用してまいります。

1 孤独・孤立の実態把握に関する市民意識調査の概要

(1) 目的

呉市における孤独・孤立の実態を把握し、これに関連する施策を実施している関係課において、事業を検討する上での基礎資料を得るため。

(2) 対象者・配布数

満18歳以上3,000人（地区の人口に応じて無作為抽出）

(3) 調査方法

調査票（返信用封筒同封）を郵送し、Webまたは郵送で回答

(4) 調査期間

令和6年9月27日（金）～令和6年10月31日（木）

(5) 回答結果・有効回答率

回収数1,200・有効回答率39.9%

アンケート調査報告書はこちらからご確認ください。

<https://www.city.kure.lg.jp/soshiki/59/2024kodokukorituchousa-kekka.html>



2 調査結果と考察

本調査の質問項目は、内閣府が令和3年から毎年実施している「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査」を基に作成しています。

また、考察については内閣府が令和6年10月に公表した「令和3年、4年、5年分析結果 調査結果に関する有識者の考察」を参考に作成しています。

(1) 本市において孤独感や孤立傾向が高い方の特徴

調査結果によると、孤独感や孤立傾向が高い方の特徴は次のとおりとなりました。

- 男性単身者（特に離別者）
- 低所得者層（年収199万円以下）
- 外出頻度が極端に低い人（月1～2日程度）
- 心身の健康状態が良くない人
- 相談相手がいない人
- 安心できる居場所がない人

(2) 全国調査との比較

全国調査と比較すると、次の点で差異等が生じています。

なお、全国調査は、令和6年については11月～12月に実施され、結果はまだ公表されていないため、令和5年の調査結果との比較としています。

ア 孤独感について

孤独感が「ない」と回答した人の割合が、全国の割合よりも高くなっています。

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人について、男女別、年齢階級別にみると、男性では50歳代及び80歳以上で、女性では30歳代及び40歳代で高くなっており、全国調査よりも年齢層が高い傾向となっています。

イ 孤独感や孤立傾向が高い方の特徴について

全国調査の結果とほぼ同様の特徴となっています。

(3) 今後の施策の方向性

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人で、行政機関やNPO等の民間団体からの支援を「受けている」人の割合は6.5%で、行政機関やNPO等の民間団体からの支援を受けていない人は、理由として「支援が必要ではない」、「支援が必要だが、我慢できる程度であるため」、「支援の受け方がわからない」、「支援を受けても状況は変わらない」を挙げており、相談窓口の周知方法や相談対応において、改善できる点があると考えています。

孤独感や孤立傾向が高い方に対しては、個別かつ効果的な支援が不可欠であり、今後、相談窓口の拡充や周知の徹底、誰もが気軽に相談できる環境の整備と充実に努めていきます。